

会員の皆さま

## 分娩取扱医療機関向けの HTLV-1 母子感染についてのアンケート調査結果について

令和 5 年 8~10 月に全国の分娩取扱施設を対象に HTLV-1 母子感染についてのアンケート調査を行いました。会員の皆様のご協力により、1,290 施設（回答率 64.4%）から回答をいただきました。

産婦人科診療ガイドライン産科編 2023 年版では HTLV-1 キャリアの児の栄養方法として完全人工栄養が推奨されていますが、厚労科研（板橋班）の研究成果から、妊婦に短期母乳栄養の選択肢を提示できるようになりました。しかし、実際的な問題として、短期母乳栄養を選択した女性が確実に産後 90 日未満に断乳することが容易ではないことが指摘されており、その母乳育児をサポートして寄り添っていくことの重要性が指摘されています。そこで今回、短期母乳栄養の実施上の課題が抽出できるような調査内容とさせていただきました。さらに、スクリーニング検査の実施状況の調査から、HTLV-1 キャリア妊婦は、特に九州地方で減少する傾向にあることも確認でき、HTLV-1 母子感染防止の取り組みの成果が出ているものと考えております。調査結果を解析した結果の要点は以下に示す通りです。

改めて今回の調査にご協力いただいた会員の先生方に改めて深くお礼申し上げます。

2024 年 1 月

日本産婦人科医会母子保健部

常務理事 相良 洋子

常務理事 関沢 明彦

常務理事 鈴木 俊治

## 記

- HTLV-1 のスクリーニングは広く行われており、陽性率は九州では高いものの明らかに低下傾向にある。
- HTLV-1 キャリアのうち、水平感染の可能性のあるものが 7.3%いることが確認された。
- HTLV-1 キャリアの 77.4%は人工栄養を選択しており、短期母乳栄養は 12.8%である。
- HTLV-1 キャリアと診断された妊婦のこころのケアについて配慮する施設もある。
- 短期母乳栄養の選択者について
  - 九州と関西で多い傾向にある。
  - 母乳ケアは助産師を中心に担われている。
  - 3分の1は1か月健診でケアが中断されている。
  - 4分の1ではフォローアップが行われていない。
- HTLV-1 キャリアから生まれた児のフォローアップは小児科医に依頼されることが多く、フォローアップされていないことも1割以上ある。
- 産後の HTLV-1 キャリア女性のフォローアップを専門施設に紹介したり、自施設で行うのは 50%以下である。
- 約 40%の施設の地域に HTLV-1 専門施設を紹介するシステムがある。

以上